

日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 武市 和彦
〒164-0011 東京都中野区中央5-48-5 シャンポール中野504号
Tel/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com
http://www.nihonkouren.jp

発行：隔月1回
2019年8月1日
No.338



「憲法9条を守れ！高齢者のいのち、健康とくらしを守れ！」
＝静岡県高齢者大会会場からJR磐田駅までパレード（記事P2～）

7/2福島実行委員会、7/23同事務局会議 参加者の受け入れ、大会の諸準備、福島県内500人以上参加 の取組進む

福島実行委員会

第33回日本高齢者大会in福島・福島実行委員会は7月2日に第7回実行委員会（20人参加）、7月23日に第4回事務局会議（10人参加）を行いました。いよいよ大会まで2か月と迫る中、以下の点で議論しました。（人数は1日当たり人数）

①福島県からの参加者組織は、各医療生協

や地域実行委員会を中心に目標に向けて奮闘中です。地元の郡山では郡山医療生協が120人目標、くわの福祉会後援会30人、年金者組合郡山も取組を強化しています。福島医療生協はマイクロバス3台に加え日帰りも訴え、7/29を第一次集約としています。わたり福祉会もバス1台25人目標、会津は目

標達成へ申し込み開始、列車参加も訴えています。いわきは独自申込書も作成し、60人に目標を引き上げました。その他の県南・須賀川・安達二本松も現地実行委員会事務局から再度お願いすることとしました。

②参加費補助を目的とする福島版「参加のしおり」の広告集めは8月末までに各地域で目標へ向け奮闘することを確認。

また「しおり」内容について確認しました。

③会場案内・道案内・全体会・講座分科会担当等の大会要員の分担と、各責任者を決定しました。

③磐越西線の車両増結問題については、7月16

日に郡山駅でJR東日本仙台支社に再度要請。臨時列車を含め検討中ということで、7月末までに結論出すということでした。

(8/1現在回答未です)

④後援名義については、福島県はお断りの返事。

サブスローガンの「原発ゼロの日本」が不承認の理由のようですが、残念です。

後援自治体は「しおり」表紙にある29自治体です。

次回8/6実行委員会までに参加組織・広告集めに奮闘しようと確認しました。

静岡県各分野の高齢期運動を学び、交流！ 6・8「第6回静岡県高齢者大会in磐田」に160人参加 野党3党から連帯の挨拶も

静岡県高齢期運動連絡会

第6回静岡県高齢者大会が6月8日、磐田市（ワークピア磐田）で開催され、全県から約160名が参加して、各地域の各分野の高齢期運動を学び、交流しました。

開催に先立ち、来賓の挨拶では立憲民主党（県連副代表天野正孝氏）、国民民主党（前衆議院議員小山展弘氏）、が初めて出席。

日本共産党（参議院静岡選挙区予定候補者鈴木千佳氏）とともに登壇し、それぞれ野党共闘としての力強い連帯の挨拶があり大きな拍手で包まれました。

記念講演は「高齢者の健康、医療と介護～自分らしく生きる覚悟、老いる覚悟を～」をテーマに間間元氏（生協きたはま診療所所長、静岡県保険医協会理事長）が講演。

「老いるということを改めて実感し考えさせられた」「高齢者の現状がわかり、高齢期運動のポイントがつかめた」「今一番思い悩んでいることであり身につまされた」「老い支度相談センター、高齢者食堂等の社会運動をすすめていかないといけないと思った」等の「納得した、元気をもらった」という感想が多く出されました（感想文から）。

午後からは、4つの分科会・分散会（第1



元気良い歌声

分科会「介護保険の現状と問題点、介護の経験を出し合って」、第2分科会「高齢者の貧困問題」、第3分科会「体を動かして元気に！&脳いきいき講座」、分散会「生きがいのもてるまちづくり～足の確保と生活問題～」に分かれ、助言者の協力を得て、参加者の活動交流も含め充実した分科会となりました。

大会終了後は広場で大会決議を拍手で承認し、会場から東海道線のJR磐田駅までをパレード。天候にも恵まれ、みんな元気に「憲法9条を守れ！高齢者のいのち、健康とくらしを守れ！」と訴えながら、みんな元気にパレードしました。

（静岡県高齢期運動連絡会 小高賢治）

県高齢者大会成功を力に日本高齢者大会 i n 福島を成功させよう！

7.24 「静岡県高齢期運動連絡会第15回定期総会」開催

静岡県高齢期運動連絡会

静岡県高齢期運動連絡会「第15回定期総会」が7月24日に県評会議室で、年金者組合、生健会、民医連、新婦人、県評から約20名の参加で行われました。

今年は、講演、学習会は行わず、「第6回静岡県高齢者大会 i n 磐田（6/8）を全県から約170名の参加で各地域の各分野の高齢期運動を学び、交流した」ことや「県健康福祉部と

の交渉（10月）に向けて、制度改善などの要望をまとめ、県側の回答や答弁に対して適切に指摘できるように学習も強めていこう」など活発な発言が出されました。そして第33回日本高齢者大会 i n 福島を大きく成功させるためにも、県の参加目標50名達成に向けて頑張ることなどの方針を確認しました。

病気になったらどうなっちゃうの！ 高齢者の人たちの負担を増やすなんておかしい！

猛暑の中、「75歳以上の原則2割化に反対する請願署名」宣伝行動

静岡県社会保障推進協議会

静岡県社会保障推進協議会は7月25日、毎月行っている25条デー宣伝行動として先月に引き続き、「75歳以上の医療費負担の原則2割化に反対する請願署名」宣伝行動を静岡駅地下コンコースで行いました。地下とはいえ、梅雨明けした猛暑の中、年金者組合を初め6団体11人が参加し「75歳以上の医療費原則2割化に反対する請願署名にご協力下さい」の横断幕を掲げ、35の方が署名に応じてくれました。



静岡駅地下コンコースで署名活動



女性が多く署名に応じてくれました

じっとしているだけでも汗ばむような中でも、足を止めて署名をしてくれる人は女性が多く、「これから先のことを考えると怖いわ

「病気になったらどうなっちゃうの」と不安を口にして署名をしてくれました。

ハンドマイクで訴えた小高賢治・県高齢期運動連絡会事務局長、山田美香・県保険医協会副理事長らは「『（高齢者は）病気になりがちな人が多く、医療費がかさむから自分たちで負担せよ』という発想です。年金を減らして社会保障を削減すれば、経済的理由により、ますます必要な医療が受けられなくなります。高齢者の命と健康を脅かす負担増（2割化）は許されません」などと訴えました。「初めて知った」という83歳の女性は、「少

ない年金なので息子の扶養になって世話になっている。これ以上負担が増えて息子に迷惑がかかるようになるのは困る」と署名。72歳の女性は「年金も減るなかで、介護保険料を天引きされるなど収入が少なくて今も大変です。負担を増やすのではなく安心して暮らせるよ

うに福祉を充実してほしい」とペンを走らせた。29歳の女性は「今まで日本を支えて頑張ってくれた高齢者の人たちの負担を増やすなんておかしい。国のやることはめっちゃくちゃで許せないです」と憤りを口にしました。

日本経済を支えたのは“我々高齢者” 6.19「2019年宮崎県高齢期運動連絡会総会」

宮崎県高齢期運動連絡会

6月19日（水）、宮崎医療生協本部会議室で『2019年宮崎県高齢期運動連絡会総会』を開催しました。冒頭、岩切八郎会長が「今の高齢者は『金の卵』と言われ、経済を支え日本の基礎づくりをしました。高齢者の交通事故が増えている今日、“高齢者は”と言われていているが、私たちが求めているのは“高齢者をいじめない日本、国民をいじめない日本”。高齢者パワーを出し合って頑張りましょう」とあいさつしました。

18年活動報告、19年活動計画、決算・予算承認後、質疑応答では「連絡会が取り組んだ高齢者運転免許証返納アンケート、3月度宮崎市議会に『高齢者運転免許証自主返納に伴う高齢者の支援』請願を行い採択されましたが、その後の宮崎市の対応は、

「行事を計画しても車がないと参加が厳しい。車は高齢者にとって不可欠な問題。交通手段が不便な地区では、老人クラブも解体しつつある」などの意見がでました。

学習会では、長年宮崎県社会保障推進協議



学習講演する長住和哉氏

会でご活躍された長住和哉前事務局長が『これからの社会保障推進運動』をテーマに「長年の運動の一步一步が取り組みの実現に結びつきました。地道な運動を継続し、訴えていくことが大事です」と話されました。18年度は8つの団体で活動してきましたが、19年度は新たに1団体が加盟し9団体となりました。最後に「高齢期運動の活発な取り組みをみんなでがんばりましょう」と、閉会あいさつがありました。（事務局 田中裕人）

高齢者の願い短冊に込め

7.7「第21回七夕ウォーク」

広島県高齢期運動連絡会

7月7日、「第21回七夕ウォーク」が行われました。

この七夕ウォークは1999年の国際高齢者年に広島で開催された日本高齢者大会の成

功をめざす取り組みの一端として始められたものです。

広島県高齢期運動連絡会に結集する生健会、年金者組合、新日本婦人の会、広島医療生協、

広島中央保健生協のメンバーおよそ100名が、中区袋町公園から金座街を経て京口門公園までの約1・5キロをパレードし、くらしや平和に関する高齢者の切実な願いを市民にアピールしました。このウォークに持ち込まれた七夕の笹には「平和な暮らしが続きますように」「ボケないでいつまでも元気でおれますように」「消費税は暮らしを壊します」などと書かれた短冊がつるされ、参加したメンバーの思いが込められていました。



出発点となった袋町公園で集会がもたれ、塚田博会長があいさつし、「憲法九条が、安倍自公政権の下で壊されようとしています。二度と戦争はしないと誓って戦後の平和なくらしを築く営みの一端を担ってきた我々高齢者の願いを踏みにじらせることはあってはならない。今行われている参議院選挙で、九条改憲を阻止しましょう」と訴えました。

本通り、金座街では多くの市民が私たちの七夕ウォークに足を止め、「消費税増税を中止させましょう。マクロ経済スライドを廃止し『減らない年金』で暮らしを守ろう」の訴えに共感の拍手を寄せていました。

京口門公園で流れ解散した一行は、女学院高校前の中徳会館まで移動し、昼食しながら交流会をもちました。

加川勲さんの軽妙な司会で交流会が進行され、年金者組合の有志による日本舞踊、広島医療生協の仲間によるハーモニカ演奏と参加者全員の歌声、安産亭徳丸師匠の落語「ごごと念仏」と盛りだくさんの芸が披露されました。



集会の最後に「七夕ウォーク宣言」を採択しました。

(「生活と健康を守る新聞」第2464号

安佐南生健会 牛尾清彦さん記事より)

第10回国連高齢化に関する会議 参加報告 (No.1)

(一社) 日本高齢期運動サポートセンター

(一社) 日本高齢期運動サポートセンターは、4月15日～18日の第10回WGに代表団8名派遣しました。

本会議で日本NGOとして鈴木静副団長がステートメントし、NGO全大会で井上英夫団長がWGの運営について前向きにすすめるよう発言し、

流れを変えたことなど高齢者人権条約制定のため国際的にも大きな役割を果たしました。

国連報告 - 春爛漫のニューヨークへ 代表団団長 井上英夫

今年第10回を迎えた高齢者人権条約制定のためのWG作業部会は、春たけなわの4月15日から18日まで、NY国連本部で開催されました。今年のテーマは、① Education, Training, Life-long Learning and Capacity Building 教育、訓練、生涯学習および能力開発と② Social protection and social security (including social protection floors) 社会的保護と社会保障、でした。



今年も事前のアンケートがありました。①については鈴木静さん、②については高田清恵さんにご担当いただき、国連に提出しました。capacity-buildingを「能力開発」と訳しますが、開発というより「能力形成あるいは育成」としたほうが良いかもしれません。また、Social protection and social security「社会的保護と社会保障」も内容的には重複する面もあり、どのような制度でどのような保障がなされているか議論し、整理する必要があります。

今年も日本からのレポートとして冊子を持参しました。①東京保健生活協同組合からの「和みカフェ」の取り組み②日本年金者組合からの裁判報告③企業組合伊丹市雇用福祉事業団の公的就労事業創設の取り組みです。また、昨年に続き、日本文ですが、国連の人権条約の歴史、経過のわかる論文と資料を満載した賃金と社会保障の『特集 高齢者人権条約の実現を！第2弾』、2019年3月上旬号も持ち込みました。賃金と社会保障2018年3月下旬号の特集第1弾とあわせてご覧ください。今年の国連での議論の内容、全体の雰囲気については鈴木さんのレポートをご覧ください。日本のNGOとして高齢期運動サポートセンターから8名の代表団が参加しました。別表のように、私が団長、鈴木副団長、武市事務局長の布陣でした。残念なことに、鐘ヶ江サポート

センター専務、鮫島NY事務所長が参加できませんでしたが、東京の増子さんご夫妻、岡山の阪井さん母娘とさらに、伊丹からの高木さんの参加とバラエティに富んだ代表団でした。本会議での発言、NGO会議への参加・発言そして各国NGO代表等との交流、さらには日本の国連大使との面談まで大活躍していただきました。とくに武市さんは、会議の全日程に参加され、英語も随分上達したそうです。

会議は、朝9時から夕方6時まで続きます。皆さん、会議の合間にNY見物も楽しみました。観光ばかりでなく、岡山で精神に障害のある人々や生活保護利用者の住宅保障に取り組んでいる阪井さんは、ホームレスの人々の住宅事情を調べました。私もご一緒しましたが、歴史的建造物に認定されている立派なビルでした。残念ながら中には入れませんでした。今回の「社会的保護と社会保障」の第二テーマに関連するのですが、社会保障とは国が、権利として保障するのが基本ですが、世界的に公私の役割分担が問題になっています。民間の力が大きく、アメリカの社会保障は遅れているとされるのですが、中央とくに地方政府の果たしている役割も大きいのではという感想をもっています。制度と生活の実態を明らかにする必要があります。次回を期しましょう。

昨年の報告でも、国連における情報の収集以上に情報の発信が大事であること、そして何より日本政府への働きかけを強め、高齢化先進国として高齢者の人権保障の面でも世界をリードするよう姿勢を転換させる必要があると述べました。

発信の点では、鈴木さんが本会議で発言しました。私たちそして世界のNGO運動により、人権条約への日本政府の態度も変化してきています。私も黙ってられず、朝のNGO全体会議で以下のような発言をしました。

「おはようございます。皆さんの連日のご活躍に敬意を表します。

国連NGOの日本高齢期運動サポートセンター代表の井上英夫です。

英語が不得意なので、発言を我慢してきましたが、今日は、是非皆さんに聞いてもらいたいことがあるので、Google翻訳で話します。

もし、間違っていれば、Googleに責任があります。

2002年、マドリードでの第二回高齢化世界大会以来この運動に参加してきました。このWGには、5回からほぼ毎年参加してきました。国連に来るたびに、国連の条約担当責任者ローズマリーRosemary、NGOのお世話役スーザンSusanはじめ皆さんから、日本政府は条約制定に反対している。VERY AGAINSTだ。日本政府を変えなさい、と言われてきました。そこで、来るたびに、『すみません。努力が足りません』と、恐縮していました。日本語で、『肩身が狭い』といいます。しかし、この間の運動と政府への働きかけで、日本政府、外務省も3年前から変化してきました。

4年前には、私が政府代表に挨拶に行ったら、逃げられました。私が勇気を出して、条約制定を早急に進めてほしいと本会議で発言したら、政府代表が、異例にも、あれは一民間人の意見に過ぎないと、再発言しました。

私の発言は、よくやったとNGOの皆さんが褒めてくれましたね。

今日は、私をほめてくれたローズマリーもNYのムリエルMurielさんも来ていません。時の流れを感じます。ムリエルさんは体調不良だそうですので、今日午後お見舞いに行きます。

ところが、今年は、政府・外務省の職員が、私たちを探しに来て挨拶してくれました。

『毎年会議に参加していただいて有難うございます』と。びっくりするような変化です。今日の午後、日本の国連大使が日本のIT関連のイベントに来ますね。その大使に代表団として挨拶できることになりました。

政府の発言も、昨年、条約制定に『必ずしも反対するものではない』、とニュアンスが変わりました。

小さな変化ですが、日本にとってあるいは世界にとっての大きな変化になるかもしれません。さらに大きな変化、ウェーブを巻き起こし、条約制定につなげたいと改めて思っています。

皆さんの運動のおかげです。感謝します。

一緒にベストを尽くしましょう。

次は、この場に、日本政府代表が出席し、発言してくれるようにしたいと思います。」その会議の様も鈴木さんがまとめてくれていますが、何より、継続は力なり、を実感しました。

午後、NYセントラルパークの近くのアパートに、鈴木さんと一緒にムリエルさんをお見舞いしました。朝の発言を聞いてもらいましたが、大変よろこび、またほめてもらいました。ほとんど目が見えなくなって外出は無理ということでしたが、お元気でした。さまざまな思い出の品に囲まれ、ゆったりと暮らしているようでした。

アメリカでご家庭に伺ったのは初めてでしたので、アメリカの91歳の女性そして運動家の高齢期生活を知ることができました。部屋は、チリひとつなく片付いていましたが、ヘルパーさんが週に何回かきているようです。自費なのか年金なのか、何らかの公的保障があるのか、これも次回の課題にしましょう。



ムリエルさんのご自宅で

今回もサポートセンターNY事務所長としてお世話いただいた鮫島きよえさん、鈴木副団長さん、武市事務局長、サポートセンター専務鐘ヶ江正志さんそしてご活躍いただいた団員の皆さんに感謝し、敬意を表します。

(7月30日発行のサポートセンター報
No.⑫国連報告特集より)

○大会まであと2か月切る、参加組織を強めましょう

各県の参加目標を上回る奮闘を！

参加・宿泊申込第二次締め切り 8/26 です。早めの申し込みよろしくお祈いします

7/31 までの福島大会の参加申込は約 120 人のべ 240 人、宿泊申込は 190 人です。一か月前の 8/26 までには必ず申し込みを行ってください。特に旅館申し込みは早めの申し込みをお願いします。

リーフレットは中央実行委員会に 1000 部ほどあります。電話いただければすぐお送りしますので、大いに活用してください。なお、「参加のしおり」と「ワッペン」は7/30 完成、順次参加者数（未確定の場合は目標数）を発送します。

第二次申込 8月26日（月）まで（以後大会前日まで受け付けます）

宿泊申込は FAXで磐梯熱海旅館組合へ

☆12の旅館が受け入れます。振り分けは旅館組合で行います。旅館の規模は様々ですが、サービスと受け入れは同等にしっかり行っていただきます。

参加申込は必ず FAXで中央実行委員会へ

各用紙がない場合は中央実行委へ連絡を。HP（日本高齢者大会 検索）からもダウンロードできます。

○大会の意義を確認し、魅力的な内容を訴えよう

- ①参議院選挙後の情勢から、憲法・消費税・社会保障など安倍政権に対する運動がますます重大になります。この秋のたたかひの大きな節目として大会を成功させましょう。
- ②8年目の原発被災地福島から反原発・脱原発の声と運動をさらに広げましょう。
- ③全体会・学習講座・分科会・夜の企画は情勢に見合った魅力的な内容です。リーフレットを広めましょう。

○「事故原発周辺めぐり」移動分科会は8月1日（木）ファックス受付開始しました

①移動分科会の定員はバス6台270人です。現地の受け入れの関係で2台ごとに3コース。行き先はほぼ同じです。

8/2 現在 145名申込

②参加費は2000円（大会参加費とは別、当日徴収）、車内用の昼食弁当は用意します。

午前8時出発。午後3時郡山駅到着予定。

③申し込みは所定の申込用紙で中央実行委員会へお願いします。なお、乗車バスは県ごとにまとめるようにします。

④移動分科会の集合場所は、「申込書」ではホテル華の湯7時50分とありますが、磐梯熱海駅付近の旅館に宿泊の方の便宜を考え、磐梯熱海駅7時50分集合も加えました。乗車バス号車と集合場所は各県・各自に現地実行委委員会から連絡します。